

令和5年度 新有権者のメッセージ入賞者

別紙3

令和5年9月29日審査

賞区分	作 品	氏 名	学校名	学 年
石川県選挙管理委員会委員長賞	私は、今年誕生日がくると有権者となる。選挙についての授業もあり、投票について学んだこともある。それでも実感がわかない。しかし、選挙は自分たちの政治に対する意志表示ができる重要なものだ。投票率が低いといわれている今の時代だからこそ、私たちのような新有権者が政治と向き合いよく考えて投票するべきだと思う。	まつき 優奈 松木	石川県立穴水高等学校	3
石川県明るい選挙推進協議会会長賞	国民の代表となる議員を選ぶのは私たち国民だ。だから、選ばれた側だけでなく、選んだ側にも責任があるはずだ。私はそこで参加しないという選択肢を取りたくない。なぜならそれは責任を誰かに押しつけているようなものだからだ。社会の未来を作っていくのは私たちである。よりよい未来を作っていくために一票に責任を持って投票しに行きたい。	たけつ 緋七乃 竹津	石川県立七尾高等学校	1
優 秀 賞	「たった一票で結果は変わらない」と現実から目を背けている限り、私たちの声が政治に反映されることはない。大切なのは、社会の一員であるという自覚と責任を持ち、自分の意志で選挙と向き合うことだ。自分の目を見て、情報を集め、貴重な一票に思いを託す。そのたった一票を積み重ねた先に明るい未来が待っていると私は思う。	はら 彩葉 原	石川県立七尾高等学校	1
	僕はこの年齢になるまで選挙の意味なんて知ろうと思わなかった。しかし実際に調べてみると、公約には自分達の学校や県に関わっているものが多いと知った。自分の一票で候補者が当選して、その人の公約が自分たちの生活に反映される。つまり、生活と選挙は想像以上に深くつながりあっている。そのことを考えて慎重に投票をするようにしたい。	こやま まさひろ 小山 雅裕	石川県立金沢伏見高等学校	2
	選挙は私達の意見を伝える場である。これからの世代を担う私達が投票をしなければ、新しい世代の政治が行われることはない。新有権者の私達が、新しい世代を作っていくのである。投票をすることは、難しいことではない。投票所へ行けばやり方は全て教えてくれる。これから先の新有権者のためにも、私達から投票することを習慣にしていこう。	まつむら みつる 松村 光流	石川県立穴水高等学校	3
	有権者が十八歳以上の人も対象になったことで、私たち高校生の意見を主張することができるようになった。しかし、私以外の人が投票してくれるだろうから私は投票しなくていいと考える人が多い。たった一票でも、社会を変える確かな一票だ。自分たちにはそういった権利が与えられている。自分の意志で、自分の意見をもって投票したいと思う。	きわもり きよたか 澤森 清孝	石川県立羽咋工業高等学校	3